

book review

Anesthetic and obstetric Management of High-Risk Pregnancy
Datta S

Year Book Med. Pub., Inc. ¥18,270

(医学書院, 洋書部調べ)

最近では重症妊娠中毒症や心疾患妊婦など全身管理あるいはICU管理が必要な症例を扱う機会が増え、ハイリスク妊娠における全身管理の知識が要求されることが多くなってきた。本書はハイリスク妊娠の産科麻酔管理についての新書であるが、本書の特徴は産科医と麻酔科医の両者によって書かれていることで、産科医によって疾患の原因、病態生理学、産科的診療指針、麻酔科医によって麻酔管理が書かれている。単に麻酔についてのみ扱っているのではなく、病態生理学から入り、産科管理に触れた後、麻酔管理に言及しているのだから、読みやすい構成になっている。麻酔管理についてもあまり専門的すぎず、各疾患別に分娩や麻酔に関する問題点が記載されているので、産科麻酔管理の知識を得るのに、また、麻酔科医とのdiscussionが有益に行えるようにあらかじめ読んでおくには最適の本といえるだろう。ハイリスク妊娠に関する疾患を網羅しているのだからぜひ備えておきたい一冊である。

福島県立医科大学産科婦人科助教授 星 和彦

Atlas of Histopathology of the Cervix Uteri
Dallenbach-Hellweg, G. & Poulsen, H.

Springer-Verlag, Berlin ¥30,800

(医学書院, 洋書部調べ)

ドイツの婦人科病理学第一人者である、Dallenbach-HellwegがPoulsenと共に著した子宮頸部病理組織図譜である。221枚のカラー図を用いた子宮頸部病変の病理診断の手引書となることを意図した本である。

子宮頸部病理組織標本の作成の仕方から、正常組織像、内分泌学的な環境下での組織変化、炎症像、良性腫瘍の記述に引続き、前癌病変、悪性病変へとコンパクトな記述にカラー組織像が配置された大変読みやすい構成となっている。

婦人科病理に興味のある先生方はもちろんのこと、これから病理をやってみようと思われの方にも大変参考になる本である。子宮頸部の病理といってもその組織像は多彩であり、なかなか理解しにくいものがある。しかし、このようなアトラスの形の本が手元があれば、その組織像を見ているだけでも楽しいものがあります。また日常診療の際に子宮頸部病理標本がもどったとき、病理からの所見とこの本の中のカラー組織像との比較を行っていくと、すこしずつ病理標本に親しみが湧いてくる可能性があり、その理解とともに日常臨床における子宮頸部病変への取り組み方も変わってくる可能性がある。

信州大学医学部産科婦人科教授 藤井 信吾